

スリーボンド×日産自動車大学校×KONDO Racing

「二連覇に向けての挑戦」



開幕戦優勝！

スーパー耐久シリーズ 2017 第1戦もてぎ 200分耐久レース

レポート 日産自動車大学校 五校合同 学生広報部

2017年3月30日～4月2日

TWIN RING MOTEGI

このプロジェクトは下記のパートナー企業に支えられています



【プロローグ】

4月1～2日にツインリンクもてぎサーキットで2017年スーパー耐久レース第1戦が行われた。今年で6年目になる『スリーボンド×日産自動車大学校×KONDO Racing』の共同プロジェクトは昨年悲願であった初のシリーズ優勝を成し遂げた。そして今シーズン、カーナンバーを24号車から1号車に改めてシリーズ連覇に臨む。



【レース結果】

予選

Pos	No	Car	A Driver	B Driver	Time (A+B)
1	8	ARN Ferrari 488 GT3	2' 03.580	1' 50.752	3' 54.332
2	3	ENDLESS・ADVAN・GTR	2' 04.591	1' 50.248	3' 54.839
3	1	スリーボンド 日産自動車大学校 GT-R	2' 04.602	1' 50.239	3' 54.841

決勝

Pos	No	Car	Lap	Time
1	1	スリーボンド 日産自動車大学校 GT-R	105	3:21' 38.886
2	3	ENDLESS・ADVAN・GTR	105	3:22' 02.169
3	99	Y's ditraction GTNET GT-R	105	3:22' 52.403



【5校合同学生スタッフの活動】

毎年初戦であるもてぎ戦は、5校連合チームで活動しています。今年も、栃木校、横浜校、愛知校、京都校、愛媛校から合わせて70名の学生が参加しました。

テクニカル・ドライバーサポート領域

～主にピット作業やピット内のマネジメント作業～



アライメント測定



ピット設営



フィルム貼り



ドライバーをサポート



タイヤの脱着

この活動を通じて

・統括リーダー 平川 佳樹 (京都校)

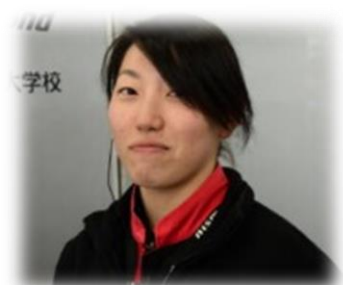


全国5校から集まった学生の統括リーダーという立場に立ち、今までとは違う緊張感に包まれていました。昨シーズンはチャンピオンを獲得し、この開幕戦は非常に大切なレースになると感じていたからです。決勝レースが終わったときは嬉しいと同時にホッとしたというのが素直な気持ちでした。学生スタッフはそれぞれの役割を果たすことができたと感じています。

これからさらにレベルの高い活動にしていけるよう、各校の活動に注目したいと思います。

・テクニカル領域 高橋 希 (横浜校)

もてぎは富士に比べてピット内が狭く、作業の邪魔をしないように、班員の行動を把握する事や安全に対して常に意識する事が大変でした。この経験を通して、同じミスを繰り返さず、悩んだときは一人で抱え込まず皆とシェアすることが大事だと感じました。



・ドライバーサポート 芝田 郁美 (愛知校)



ドライバーサポートは、ドライバーが求めているものを察知して用意をすることやピットの動きを読み、次に何が必要かを考えて動く事が求められます。

難しかったですが女性目線からの細やかな気配りが出来ました。

また、ドライバーと近い仕事でしたので、より一層レースの緊張感、達成感等をチームの一員として肌で感じる事が出来ました。

マネジメント領域 ～会場の設営やお客さまのおもてなし～



ピットウォーク



炊き出し



テント設営



テント外観



テント内座席



バックヤード

この活動を通じて

・マネジメント領域 清水 雄太 (愛媛校)



5校合同ということでお互いコミュニケーションが大変でしたが、協力し合う事で温かいご飯と味噌汁を提供することができました。その中でも、自分の意見をしっかり言って相手の意見も聞き尊重する事を学びました。

オートポリス戦では今回学んだことを活かして学校全体で活動を作り上げていきたいです。

STO(スーパー耐久機構)領域～レースの運営に携わる～

今回から新しく STO 領域が追加され、日産校の学生がオフィシャル活動を行う事になりました。



スタート進行



ドライバーフリーフィンク



レースクイーンフリーフィンク

この活動を通して

STO 領域 小柳 慶一郎（愛知校）

今回からの新しい取り組みでありますSTO領域で活動しました。活動内容は、車検やゼッケンステッカー等の貼付確認、スタート進行、ドライバーやレースクイーンの受付、資料配布、リハーサルなどの手伝いを行いました。短い時間で予定を組んでいく組織の底力を感じました。

高い結束力の中、全体の動きを見ることができたので、今後の自分に活かしていきたいと思いました。



広報領域 ～活動内容を取材しレポートを作成する～

広報リーダー 高木 維（栃木校）

今回、広報のリーダーとしてメンバーのスケジュール管理、それに並行して自分の仕事もこなしていくのが大変でした。

メンバー各々の適性等を考えながら仕事を振り分けるマネジメント力を学ぶことができました。



【監督、ドライバー、メカニック、の方々へのインタビュー・監督講話】

監督インタビュー、講話 ※インタビュー、講話は決勝前に行いました。

インタビュー内容

1. 今年、この活動も6年目になりますが、振り返ってどのように感じていますか？
2. 予選3位でしたが、本日の決勝をどのように戦おうと思いますか？
3. 昨年、5年目にしてシーズン優勝を飾りましたが、優勝チームとして生徒に意識して欲しい点はありますか？
4. 最後にシーズン2連覇に向けて、一言お願い致します！

近藤真彦 監督

1. 継続は力なりで、5年間学生と戦って5年目にチャンピオン獲れるなんてまさしく夢物語。チーム、学生にとってもいい刺激になった。1000人近い学生が今までに出ていると思うと、このプロジェクトの大きさをひしひしと感じてきて、このプロジェクトを卒業していった学生がいると思うと感動するね。
2. 長いレースなので3位までに予選で入っていれば表彰台の真ん中も見えている。戦い方の問題で、昨年最終戦までチャンピオン争いをして、ライバルチームが1度もミスなく後ろについていた。そのしぶとさで最後まで苦しめられた。1レース落とすとチャンピオンの芽が半分くらいなくなるから、1レースも落とせない。ドライバーに一生懸命走って貰って、後はレースをしながらの戦略となってくる。
3. 誇りとプライドを持って任務に当たってもらいたい。学生がお手伝いに来ているなってイメージは5年目で卒業。これからは落ち着いて作業も出来ているし学生も本気モードだな、というスタイルに変え



ていきたい。

4. レースにはドラマのようにシナリオはないので、どこで何が起きるか分からない。何か起きた時の下準備や対応が出来る様な体制を整えていきたい。ドライバーにはただひたすらに走ってもらって後はピットに任せると、そういうレースがしたいなと思っています。



ドライバーインタビュー ※インタビューは公式予選後に行いました。

インタビュー内容

1. 今年のマシンの調子はどうですか？
2. ドライバー同士で連携など、心がけていることはありますか？
3. 今回は五校合同ですが、学生を見て連携等いかがですか？
4. 日産校を卒業すると多くの学生はプロの整備士として働くこととなりますが、プロの意識として大切なことは何ですか？
5. 最後に今年の抱負を聞かせてください！

藤井誠暢 選手 (Bドライバー、フラク十)

1. 車は昨年と一緒にセットアップの仕上がりは悪くなく、十分優勝を狙える。
2. 普段から仲も良く、細目にコミュニケーションをとっている。他のチームがあまり力を入れていないドライバー交代に力を入れている。
3. 去年チャンピオンを獲得し、より一層意識が高まっている。
またこの活動を楽しみにしているのも感じ取られる。
4. 完璧は当たり前、この活動を通して学んだ事をプロの整備士として技術や精神力に活かしてもらいたい。
5. 今年は追われる立場、昨年と同じことをやって優勝できるほどレースは甘くない。昨年以上にチーム力等レベルアップして臨みたい。



内田優大 選手 (Aドライバー、ジェントルマン)

1. 乗りやすいマシン、ミスなく走りきれば結果につながる。
2. 普段から藤井さんや平峰さんにレクチャーをしてもらい、仲も良く結束力がありまとまっていると思う。
3. 真剣な表情で熱意を感じられて、みんなまとまっている。いつも見ていると初心を思い出す。
4. 自動車はネジ1本緩んでいると命につながる。細かいところにも気を抜かずに仕事をこなすことでやりがいにも繋がる。
5. 今年は毎戦大事にし、シリーズ2連覇を目指したい。



平峰一貴 選手 (Cドライバー)

1. マシンは仕上がっている、決勝は自分たちのベストを出すのみ。
2. 普段からコミュニケーションとり、チーム力では負けない自信がある。
3. 初めて参加する学生もいるが熱意を感じられるし目つきが違う。それが自分に対する良いプレッシャーになっている。
4. この活動に参加している学生一人一人の意識が高く、社会に出ても高い意識を保ってほしい。
5. 昨年以上の結果を残せるようにスイッチを切り替えて臨みたい。



メカニックインタビュー ※インタビューは公式予選後に行いました。

インタビュー内容

1. もてぎ戦は日産5校合同での参加ですが、チーム活動するうえでの大切なことは何ですか？
2. レース活動で苦労した体験談、またそれを乗り越える方法を教えてください。

武田敏明さん (チーフメカニック)

1. 全員が1つの目的に向かうことが大事で、人数が多くなればなるほど人は楽な考えや自分一人がサボってもバレないやという考えを起こしがちですが、仲間とのコミュニケーションを大切に自分が今何をすべきかを考えること。それと、リーダーは仲間の気持ちなどを高めたりすることにより、チームを一つにまとめることも大事です。
2. 私たちはプロです。苦労を苦労と思っていません。お金をいただいて仕事をするという事は責任が伴います。物理上不可能ではない限り諦めてはいけません。それは、社会に出たときすべてのことに言えることです。



【MAC TOOLS 特別講座】

MAC TOOLS は1938年アメリカ オハイオ州で工具、工場を買い取り、そこで工具を作ったところからスタートしました。

工具は鍛造という方法で、強く・頑丈なものに仕上げるための製法で作られています。

また、MAC TOOLS の工具は頑丈さだけでなく、使いやすさや安全性、工具やネジ・ボルトが痛まない工夫がされているものも多くご紹介していただき、より理解を深めることが出来ました。



講師としてお越し頂いた土肥さん

実際に工具を使っでの講座

インタビュー内容

この活動をどのように思いますか？

MAC TOOLS 商品担当 土肥範之 様

若い方の車離れが最近多い中、車が好き、機械が好き、レースが好き、というような新しい世代が育っていくことに、一緒に協力できるのはすごく光栄だと思います。

【YouTube】

世界トップ動画サイトの YouTube に『KONDO Racing×日産自動車大学校×スリーポンド』の活動が生中継されました。今年で、このプロジェクトも6年目に入り、多くの方々にこの活動を知ってもらえているのだと改めて実感しました。



staitv で検索お願いします。



この活動を支援、応援して下さる全ての方に感謝申し上げます。
学生教員一同、これからも精一杯取り組んでいきますので、今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

レポート作成 日産・自動車大学校

各校 広報学生名 高木維 大滝琉久 宮内秀喜 岩井啓介 吉村仁志 河野希一